

# 障がい者が取り組むゴマの経営モデル

利用対象：福祉事業所

障がい者に円滑に農作業に取り組んでもらうためのポイントには、

- > 作業分割
- > 障がい特性に応じた適材適所の人材配置
- > 使いやすい道具の工夫、改良
- > 視覚で判断できる工夫
- 等があります

ゴマの実証栽培において、これらの工夫を明らかにし障がい者が取り組める経営モデルを作成しました。

## ①作業分割と適材適所の人材配置

作業内容		播種			除草・間引き			収穫				脱穀			調製				
作業分割状況		畝立て	畝の整形	播種	除草	間引き	畝間の除草・土寄せ	刈り取り	ネットの準備	結束	積み込み	運搬	乾燥	脱穀	回収	篩い	唐箕投入	排出	篩い
作業人数	障がい者	最重度			2			1			1			2				1	
	重度		1		4			2	1		1			2					
	中度		1	1	4	2		3		1			2	1	4		1		1
	軽度		1		1		1	1		1					1	1			
	職員	1				2		1				1		1	1				

## ②道具の工夫例



ネットを利用し  
結束作業を簡単に

各作業を3~6工程に分割。  
それぞれの障がい者の適性  
に応じて、作業を分担

## 10a 当たり所要労働時間と経営収支 (生活介護事業所の例)

## ③視覚判断の工夫例



畝を立てて、  
播種位置の目安に

- >労働時間 障がい者(知的) 121時間  
職員 19時間
- >収量 62.7kg (24、25年平均)
- >売上 125千円
- >経費 108千円 (障がい者の工賃含む)
- >差引所得 17千円

お問い合わせ先	地域連携研究課 中央農業改良普及センター	飯場聡子 石川 健	電話 0598-42-6356 電話 0598-42-6716
参考になる資料	三重農研HP: <a href="http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm">http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm</a>		